

第7回トピカルミーティング

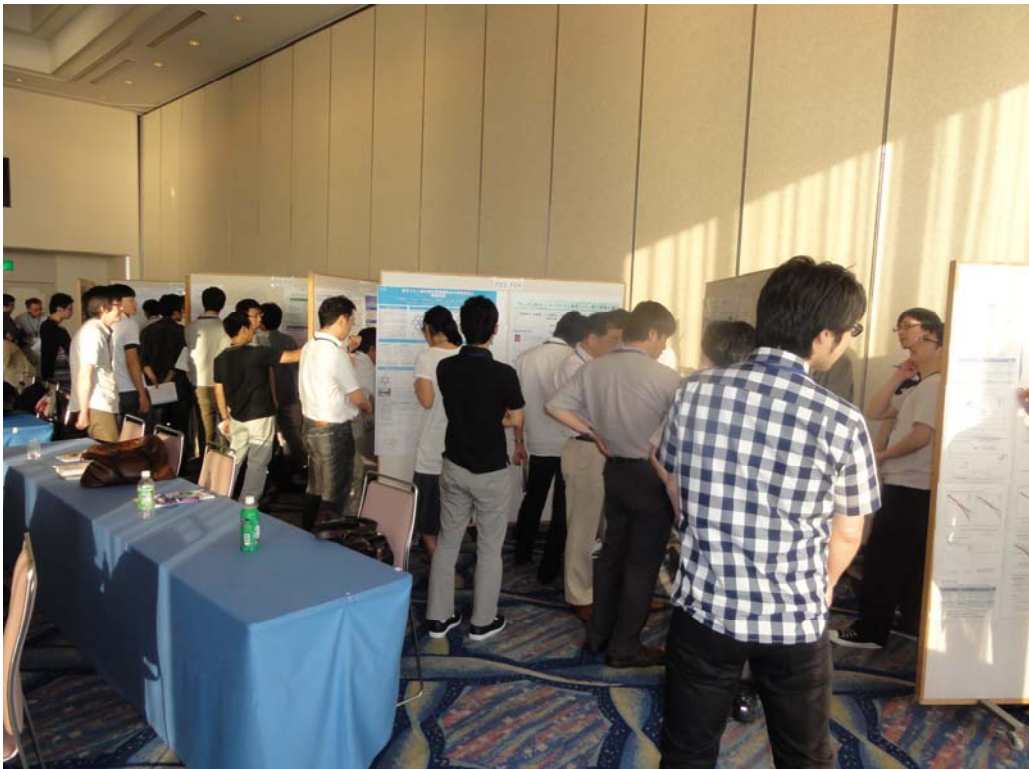
「フラストレーションとスピン・電荷・軌道・格子自由度」

会議報告

最後のトピカルミーティングである、第7回トピカルミーティング「フラストレーションとスピン・電荷・軌道・格子自由度」が、7月1, 2日に琵琶湖の畔、彦根ビューホテルで開催されました。

あらゆる自由度の関与を許したトピックスでしたので、果たしてどんな発表が集まるのかとハラハラしながらも楽しみにしていたところ、軌道秩序に関連した物、電荷値秩序に関連した物、異常ホール効果を扱ったものなど、多彩な内容を含むにもかかわらず実に巧妙にプログラムが組まれており、前後の話が上手くオーバーラップしている様子に感心しました。純粋なスピン系の話だと思っていた幾何学的フラストレーションを軌道秩序が支配する事や、ホットなトピックであるスカーミオンについてまとまった話を聞くことができ、非常に有意義でした。招待講演に35分、一般講演にも20分と十分な時間が割り当てられていたのも良かったです。会場は広く、天井の高い開放的な雰囲気の中で、活発な議論が繰り広げられる一方、休み時間にカーテンが開くと、琵琶湖と彦根城を望む抜群の眺望を楽しむことができました。その反面、ポスターに割り当てられたスペースにはやや余裕がなかったことは残念でした。

なにしろスペクトルの広い会議でしたので、個別の講演内容に踏み込むことは避けませんが、印象的だったのは、「試料が良くなったので本質が見えてきました」という発表がいくつかあったことです。この領域がもうすこし続けばもっと良い結果が出てくるのに、と終わりが近いこ



とが残念に思えましたが、懇親会での上田先生の、「重い電子系の集まりに比べて、高年齢化している」というご指摘を考えると、一度解散して、若返りを図る良いタイミングなのかも知れません。

懇親会は結婚披露宴会場のような円卓の着席で行われました。白い幕をバックにライトを浴びて、颯爽と登壇された川村先生からは、9回ツアーアウトという、チャンスだかピンチだか分からないご発言がありましたが、豪華な料理とどんどん追加されるワインも手伝って、終始和やかな雰囲気が進みました。

今回のトピカルミーティングは、伊豆の修善寺での予定で準備されていたのが、震災の影響で急遽彦根に会場を変更しての開催になってしまいました。下見もままならない状況でお世話いただいたコンビナーの皆様の御苦勞は、いかばかりであったかとお察しします。懇親会でスピーチをされた各先生とも、震災の爪痕の大きさと、その中での人間の無力さに触れられていました。そうした中で、最後に講演をされた高木先生のお話は、様々な自由度をエントロピーを通じて熱に変換する、熱電変換素子に続く新しいデバイスの誕生を予感させ、非常に勇気を与えてくれるものであったと印象的でした。トピカルミーティングも終わり、本特定領域も終盤にさしかかっていますが、ここで得られた成果を日本を元気づけるような新しい研究の潮流、新しい産業の芽につなげられる様、最後まで頑張りたいと思います。



(東 正樹)